

「診療情報地域連携システムを利用した 高齢患者への薬局薬剤師のかかわり」

株式会社大平 タイハイ薬局メディカルモールおぎ店
薬剤師 伊藤 智平

【目的】

慢性疾患の急性増悪時や外来化学療法の治療で基幹病院を受診する高齢患者は多いが、病院で受けた治療・検査に関する情報収集は聞き取りに頼ることが多く、来局されたすべての患者に当を得たケアができていないと言いがたい。

一方で、佐賀県では平成22年度から患者の診療情報を共有できるシステム、ピカピカリンクが運用されており患者の個別同意の下、調剤薬局においても開示施設の診療情報を閲覧することが可能である。今回、ピカピカリンクを利用し患者ケアを向上させることが出来た症例を報告する。

【方法】

患者本人やご家族にピカピカリンクの趣旨を説明、同意を得た患者のカルテ記事・処方薬・注射薬・検査値などを確認し、それらの情報をもとに薬効・副作用の確認、患者ケアを行った。

【結果】

近隣の診療所を臨時に受診した患者において検査値情報を確認、腎機能の低下が認められたため、疑義照会を行い適正な薬剤・投与量に処方変更できた。

化学療法を行っている患者に対し、腫瘍マーカーの低下から薬の効果が出ていることを患者と共有できた。また、臨床検査値の推移を経時的に確認することで、患者が気にしている単発的かつ軽度な検査値異常は大きな問題ではないことを伝えた。その後治療が在宅ターミナルケアへと移行した際も情報の把握が容易であった。

【考察】

高齢者では生理機能が低下していることが多いため、調剤薬局で検査値を閲覧できるシステムは薬の適正使用を監査する上で重要である。また、化学療法を行っている患者では治療の推移を共に確認していくことで、患者本人もチームに加わり問題点を解決していくという新しい信頼関係を築くことができた。この信頼関係は在宅医療に移行する際の患者の心理的な抵抗感を和らげることに繋がったと考えている。